

喉頭に対する食道入口部の位置：CT 画像からの解析

1. 研究の対象

2023 年 4 月～2025 年 3 月に高知大学医学部附属病院の手術室で心臓や大動脈の手術、治療処置を受けられた方

2. 研究目的・方法

心臓や大動脈の手術、治療のための処置を全身麻酔で行う時には、外科医や循環器内科医、そして麻酔科医も気づかないうちに体内で想定外のことが起こってしまうことがあります。50 年以上前にはそのようなことが原因で亡くなったり深刻な後遺症が残ってしまう方も少なくありませんでしたが、近年では体内の様子を映し出すことのできる超音波法の一つである「経食道心エコー」という方法を使って体内の状況を把握しながら治療を進めることが可能になり、想定外のことが起こってもすぐに見つけて対処できるため、安全で確実な治療が提供できるようになりました。経食道心エコーを使う時には、全身麻酔中に口から食道の中に胃カメラくらいの太さの超音波プローブを挿入して、食道の中から周囲の心臓や大動脈を映し出します。プローブを挿入する時には、ビデオ喉頭鏡を使って喉の奥を見ながら食道に進めていくのですが、食道の入り口がはっきりと見えないこともあります。その食道入口部の位置については人によってとらえ方が必ずしも一致していないため、どうやって事故を完全に防ぐかという決め手に今ひとつ欠けているのが実状です。そのため、この点を明らかにして、より確実な方法を見つけないかと考えたのが、この研究を始めようとしたきっかけです。

この研究では、手術前に撮られた CT 画像を解析し食道入口部の位置が人によりどれくらい異なっているかを明らかにします。過去に診察されたときの検査のデータを使用しますので、この研究を行うにあたり、皆さんへのデメリットはまったくありません。この研究で明らかになったことは、論文として広く役立てていただくとともに、プローブを挿入する方法を指導していく際の基礎的なデータとして活用する予定で、それにより従来よりも安全な挿入ができるようになると期待しています。

研究期間は、倫理委員会承認日～2026 年 8 月 31 日までですが、データを利用する予定日は 2025 年 10 月 1 日からです。

3. 研究に用いる情報の種類

検討に用いるのは、電子カルテに保存されている年齢、性別、その他の身体情報の他手術の種類、CT 画像データ、TEE でガイドしたときの画像で、いずれも個人を特定されない形で検討を行います。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部 連繋医工学分野 渡橋和政（研究責任者）

[TEL] 088-888-2022 [e-mail] orihashik@kochi-u.ac.jp